

# 保育園自己評価表

2020年度

園名 まあむキッズ大野北口新園

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりのある優しい子</li> <li>・自分で決めて自分でおこなえる子</li> </ul> <p>【達成度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が新入園児ということもあり、始めは保育者や友達とどう関わっているのか戸惑う様子が見られた。安心して生活できる環境作りを心がけ、保育者が温かい言葉かけや関わりを大切に過ごしていくと、表情豊かに活発に遊ぶ姿が増えていった。2名の3歳児がリードして活動する中で、次第に2歳児の会話からも「大丈夫？どうしたの」と相手を思いやる言葉が聞こえてくるようになっていった。1歳児も「おはよう」と自ら友達を迎えて一緒に遊んだり、0歳児に優しく声をかける姿が見られるようになっていった。</li> <li>・自分で遊びを選択できる環境づくりと、生活の中で自分で決めて行動できる経験を大切に保育を心がけていった。限られた環境と集団生活において、難しい場面もあったが、担当職員で声を掛け合うことで、一人ひとりのペースを尊重される関わりと見守りができる体制を作ることができた。子どもの姿を大切に、やりたい気持ちを引き出し、遊び込み、子ども自ら遊びを発展させられる環境づくりや関わりを大切にしていきたい。</li> <li>・朝夕の時間帯は異年齢で過ごしているが、0.1.2歳児中心の生活のなか、日中の活動では年齢別活動が多くなった。次年度より3歳児クラスが増えることで、年上児、年下児の関わりからの育ちあいを大切に異年齢混合での活動計画を充実させていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の子ども同士の育ちあいと多くの職員との触れ合いを大切に過ごしていった。どの時間帯においても子ども達が安心して生活できる環境作りができるように、勤務時間がことなる職員間での引継ぎを丁寧に行っていた。引き続き、園全体で温かい眼差しで子どもと関わり、寄り添う保育を大切にしていこう。</li> <li>・子どもの生育歴や心身の発達を考慮した個別指導計画をもとに、丁寧な保育を行なえるように取り組んでいった。月の学年会議、職員会議の中で子どもの育ちの様子を職員間で共有できるように務めているが、伝え合う時間の確保に慌ただしさがでてしまう。日々の隙間時間を大切に、更なる連携を図っていきたい。</li> <li>・担当職員の複数の目で、様々な角度から子どもの姿を伝え合い、クラス指導計画に反映していけるように取り組んでいった。ねらいを達成するための活動において、事前の準備や職員連携は欠かせないことを共有し、休憩時間を確保しながら、事務作業、保育準備、午睡番、掃除などの業務を全職員連携して進めている。見通しをもった保育につなげていきたい。</li> <li>・内部研修において「子どもの人権」について再確認を行い、丁寧な保育の実践を図るとともに、職員それぞれが思う子どもの姿、また、どんな保育を心がけているか等を振り返った。子どもの利益を第一に考え、互いの保育を尊重しながら、自園の良さ、チーム保育を大切に次年につないでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染対策により、地域の方や連携園との交流が制限され、思うように進めることができなかったことは残念に思う。コロナ感染対策を継続しながら、かたちを変えて何ができるか、職員間で試行錯誤し、次年度は連携園や地域の方との交流を図っていきたい。</li> <li>・戸外活動の際、保育者が率先して地域の方々に挨拶することを心掛けている。時折すれ違うマンションのオーナーさん、園の前に立つガードマンの方、宅配の方、散歩先で行き交う他園の保育士や園児さんなど、地域の方々との挨拶や短い言葉のやりとりをする経験が増え、子ども自ら笑顔で挨拶する姿が見られるようになってきている。</li> <li>・散歩道、公園、駅周辺の商店街、消防署など地域の様々な場所や職業に興味を持ちながら戸外活動を楽しんでいた。地域の様子に興味と親しみをもてるような言葉かけや取り組みをこころがけていく。</li> <li>・10月のさがみはら保育フェスを企画。小規模認可園・認定保育室の説明会もおこない、保育園を必要としているの方々へ利便性を図った。(コロナ感染対策により、園児は不参加)</li> </ul>

この評価のつけ方:

施設長・主任による各職員の聞き取り